

静岡・春岡遺跡群

はるおか

- 1 所在地 静岡県袋井市春岡
- 2 調査期間 一九九九年(平11)四月～二〇〇〇年三月
- 3 発掘機関 袋井市教育委員会
- 4 調査担当者 松井一明・白澤 崇
- 5 遺跡の種類 集落跡・水田跡・古墳・城跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代・鎌倉時代、江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(磐田)

春岡遺跡は縄文時代から江戸時代に至る複合遺跡である。奈良・

平安時代の遺物が出土する地区はA・C・D・G地区で、主に遺跡の西側の低地部分である。

A・G地区は太田川の自然堤防上に立地する地区で、大型の掘立柱建物、条里型水田や、祭祀遺物だまりからなる。

A地区では官衙関連と思われる大型の掘立柱建物二棟が確認され、遺跡がさらに西側へと広がることが予測されたが、西端部分では大半が近世の太田川により破壊されていた。おそらく、隣接する稲荷領家遺跡と一連の遺跡になると考えられる。稲荷領家遺跡は「知」や「周」と書かれた墨書土器が出土し、近年周智郡衙の可能性が指摘された遺跡である。

G地区では水田域と自然堤防の境で、木製祭祀遺物や墨書土器を含む土器が大量に投棄された状態で出土し、官衙周辺部での祭祀場所の検討に良好な資料を提供した。水田は条里型水田であり給排水の溝を伴う坪境の大畦畔を検出した。年代は奈良時代前半と後半の二時期がある。

これに対して、C・D地区は丘陵の小谷内部に位置し、丘陵の裾を造成して建てられた掘立柱建物一～二棟程度の小規模な遺跡である。C地区では谷内部の低湿地包含層の調査で、奈良時代の土器のほか平安時代の二面硯・緑釉陶器が出土した。D地区では奈良時代の掘立柱建物二棟を検出し、また、低湿地の包含層から中世と思われる木簡が三点出土しているが釈読できない。

今回紹介する奈良時代の木簡は、G地区の祭祀遺物だまりから木製祭祀遺物とともに出土したものである。周辺から出土している土器は奈良時代前半～後半のものが混在しており、木簡の時期は奈良時代としか特定できない。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「

辛人マ白人

瓜工マ逆

<

若倭マ赤麻呂

[小長谷カ] 伊蘇マ□□

合五人

□□□□マ首支

」

32.6×4.9×1.032

長方形板材の下端の左右に切り込みを入れており、切り込み部分には、紐状の痕跡がある。上端部は、表裏両面から切り込みを入れて切断したままで、原形を保つ。文字は墨が流れ、文字部分の盛り上がりによって僅かに判読できる程度である。

本資料の用途は断定できないが、計五名の人名が、上下二段、合計五行に整然と記されており、それぞれ書き始め・行取りなどの割付が均等に行われている。また、扁平な「人」の字の表記や、「部」の異体字に「ア」字を用いる点などとともに、全体的に柔らかな筆使いであることが特徴的である。

なお、木簡の釈読と内容については、国立歴史民俗博物館の平川南氏にご教示いただいた。

(1-7 松井一明、8 白澤 崇)



木簡研究 第一九号

巻頭言

一九九六年出土の木簡

町田 章

概要 平城宮跡 平城京跡 藤原宮跡 恭仁宮跡 長岡京跡 平安京跡
左京八条三坊十四町(八条院町) 末窯跡群 大坂城跡 広島藩大坂蔵屋敷跡 樟葉野田西遺跡 三条九ノ坪遺跡 大物遺跡 深田遺跡 安倉南遺跡 明石城跡坤櫓 明石城武家屋敷跡 袴狭遺跡 印場城跡 角江遺跡 御殿・二之宮遺跡 川合遺跡志保田地区 北条小町邸跡 伊興遺跡丸の内三丁目遺跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡牛込御門外橋詰 尾張藩上屋敷跡遺跡 青山学院構内遺跡 岡部条里遺跡 上山神社遺跡 湯ノ部遺跡 観音寺城下町遺跡 小谷城跡 高山城三之丸堀跡 松本城三之丸跡土居尻 松本城下町跡伊勢町 前橋城遺跡 大猿田遺跡 根岸遺跡 泉平館跡 山王遺跡 舟場遺跡 無量光院跡 志羅山遺跡 後田遺跡 亀ヶ崎城跡 宮ノ下遺跡 上高田遺跡 大桶遺跡 弘田柵跡 長田南遺跡 金石本町遺跡 田尻遺跡 大坪遺跡 舞臺遺跡 馬寄遺跡 下町・坊城遺跡 新発田城跡 目久美遺跡 天神遺跡 三田谷I遺跡 鴻の巣東遺跡 吉川元春館跡 長登銅山跡 飛田坂本遺跡 博多遺跡群 香椎B遺跡 鞠智城跡 前田遺跡 那覇港周辺遺跡群旧東村地区
一九七七年以前出土の木簡(一九)

美作国府跡

韓国出土の木簡について

史料紹介 琉球の木簡二題

書評 山里純一著『沖縄の魔除けとまじない―フーフダ(符札)の研究―』

書評 東野治之著『長屋王家木簡の研究』

衆報

高島 英之
鶴見 泰寿

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円